

2 0 0 4 年 7 月 9 日

株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
2-5 F・Kビル  
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
広報部 03-3664-5697

## 一般用医薬品市場の調査を実施

水虫薬は新規成分で03年市場に変化をもたらし、04年も治療情報提供戦略で173億円に市場拡大  
催眠鎮静剤では03年に国内初の不眠改善の新薬登場。慎重に市場を育成し04年は46億円の市場へ  
尿もれ抑制薬は03年8億円超と前年比ほぼ倍増。04年は前年比2.4倍の20億円を見込む

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、  
主要薬効65領域の市場動向の調査を実施し各市場の今後の方向性を分析した。その分析結果を報告書「一  
般用医薬品データブック2004 上・中・下巻」にまとめた。

この報告書では、沿革、市場動向、ブランドシェア、製品開発動向、スイッチOTC動向、医薬部外品動  
向、マーケティング活動、今後の見通しなどをまとめ、経営上のデータベースとして活用されることを目的  
とした。

### <調査のまとめ>

一般用医薬品市場は、長引く景気低迷によりマイナス基調で推移してきた。2003年もほとんどの領域  
で好転の気配は見られず、景気回復を実感できない一般生活者の意識を反映して低調な推移が続いた。

ここ数年、一般用医薬品(OTC)部門を企業間で移管する動きも活発化している。売り上げが伸び悩む  
中で事業として成り立たなくなったところが始めていると考えられ、ジリ貧状態からの脱却が緊急課題に  
なりつつある。

こうした低調な景気動向の中で、水虫薬や、催眠鎮静剤、尿もれ抑制薬などの生活改善薬、ビタミンC主薬  
製剤のしみ・そばかすケア領域は伸びている。医薬品としての強みを生かして需要創出を果たし一般用医薬品  
市場に変化を与えると共に、市場全体を好転に導く大きなヒントとなっている。

### <調査結果の概要>

#### 一般用医薬品の市場動向

##### 1) 2003年の実績

医薬部外品(ドリンク剤/ミニドリンク剤)を含む一般用医薬品の全市場は、前年比97.0%の8122億  
円となった。その内訳は一般用医薬品が対前年比97.5%の6699億円、医薬部外品(ドリンク剤/ミニド  
リンク剤)は対前年比94.8%の1424億円となっている。

・一般用医薬品は、全般的に需要の伸び悩みが続いており、2003年はPPA規制(厚労省の塩酸フェニ  
ルプロパノールアミン含有製品への指導)の影響を受けた総合感冒薬や鼻炎治療剤、冷夏の影響を受けたド  
リンク剤/ミニドリンク剤などの薬効領域が大きく減少して全市場の減少要因となった。

・売り上げ好調の大鵬薬品工業「ハルンケア内服液」に加え、小林製薬「ユリナール」の発売により市場が  
倍増している尿もれ抑制薬、新製品投入により市場が活性化している水虫薬、L-システイン配合の製品投入  
が相次ぎ活性化しているビタミンC主薬製剤、エスエス製薬「ドリエル錠」のヒットにより大幅に需要を伸  
ばした催眠鎮静剤など、市場全体が不振な中で実績を伸ばしている薬効領域も見られた。

・規制緩和で医薬部外品となったドリンク剤/ミニドリンク剤は、新規チャンネル、特にCVSルートの需要  
が一巡したうえ冷夏など季節的要因が影響して実績は伸び悩んでおり、医薬部外品の2003年実績は前年  
に引き続き減少推移となった。

##### 2) 2004年の見込み

医薬部外品(ドリンク剤/ミニドリンク剤)を含む一般用医薬品の全市場は、前年比99.2%の8059億  
円。一般用医薬品が対前年比98.7%の6611億円、医薬部外品(ドリンク剤/ミニドリンク剤)は対前年  
比101.7%の1448億円の見込み。

・一般用医薬品は昨年好調の薬効領域が引き続き拡大することが期待される。

・医薬部外品(ドリンク剤/ミニドリンク剤)は、主力ブランドのラインアップの強化が図られているミニ  
ドリンク剤の牽引によって、プラスに転じると見込まれる。

3) 2003 - 4年の領域別ランキング (2003年実績をベースにランキング OTCのみ)

販売高ランキング			前年比ランキング (5億円以上対象)			
薬効	2003年	2004年 (見込)	薬効	2003年 前年比 (%)	2004年 前年比 (見込) (%)	
1 総合感冒薬	68,600	61,500	1 尿もれ抑制薬	820	191	1,960 239
2 外用消炎鎮痛剤	49,250	48,900	2 催眠鎮静剤	4,100	144	4,600 112
3 ミニドリンク剤	38,300	38,300	3 含そう剤	7,400	113	7,900 107
4 目薬	37,450	36,700	4 ビタミンC主薬製剤	10,100	110	10,300 102
5 解熱鎮痛剤	36,500	36,750	5 水虫薬	16,600	108	17,300 104
6 総合胃腸薬	32,300	31,900	6 抗ヒスタミン剤	1,320	104	1,300 99
7 ドリンク剤	20,200	19,700	7 その他ビタミンB主薬製剤	8,550	103	8,850 104
8 育毛剤	19,090	20,690	8 OTC検査薬	5,710	103	5,780 101
9 ビタミンB <sub>1</sub> B <sub>6</sub> B <sub>12</sub> 主薬製剤	18,650	18,200				
10 便秘薬	17,550	17,650				
12 水虫薬	16,600	17,300				

(単位百万円)

(1) 主要領域市場

・総合感冒薬市場は、常備薬として備える家庭も多く成熟した市場。2003年は1月から3月初めまでインフルエンザの流行やSARSの世界的蔓延に、生活者が早期治療として総合感冒薬を使用するなど好調に実績を伸ばした。8月にPPA含有製品規制で販売中止の打撃を受けた。2004年初頭は風邪やインフルエンザが流行らなかったこともあり市場は厳しい状況にある。

・ミニドリンク剤市場は、冷夏の影響も受けて医薬品、医薬部外品ともに薬系チャネルでの落ち込みが続き、2000年のピーク時から20%のダウン。2004年は、女性向新製品の牽引によって市場規模はプラスに転じる見込みである。

・外用消炎鎮痛剤市場は肩こり、腰・ひざの痛みなどに使用されインドメタシンをはじめスイッチ成分配合の新薬品の投入が続き、市場を下支えしている。高齢化に向けて使用量は増加しており、新世代薬による市場の活性化を期待したい。

・目薬市場は、PC、携帯電話の普及による生活環境の変化が後押しして利用の増加が期待される。価格競争といった悪循環の中で、使い捨てコンタクトレンズユーザーの増加が人工涙液、洗眼薬を伸ばして市場を支えている。今後もPC社会で、一般点眼薬の常用習慣化が見込まれるだけに価格訴求の悪循環から転換する動きが期待される。

(2) 主な成長市場

・尿もれ抑制薬市場 2004年は20億円市場(前年比239%)に拡大  
2001年に生まれた尿もれ抑制薬市場は2003年も前年比倍増の好調ぶりで8億円を超えた。2004年は2社それぞれの戦略展開で市場がさらに活気を帯び20億円に達すると見込まれる。

・催眠鎮静剤市場 2004年は46億円市場(前年比112%)に拡大  
生活の24時間化や、ストレスからの一時的な不眠など睡眠に問題を抱える生活者が増加して、2003年に国内で初めてこれに対する直接効能をうたう新薬が生まれた。今後、安全性を優先して慎重に市場を育成する取り組みにより穏やかな市場づくりが進められる。

・水虫薬市場 2004年は173億円市場(前年比104%)に拡大  
湿気が多い夏場中心の市場であったが近年冬季の暖房やブーツの愛用で年間を通じて需要が生まれている。2003年は新規スイッチ成分による新世代水虫薬が登場して市場がさらに活性する兆しを見せた。今後は治療の幅広い情報提供の展開が更なる市場拡大につながると見られる。

「OTC」

オーバー・ザ・カウンター・ドラッグ(Over The Counter Drug)の略  
一般用医薬品のことで、医師の処方せんがなくても、薬局等で購入できる医薬品。

「スイッチOTC」

医療用医薬品のうち、医師の処方なしに使っても安全な成分を市販薬に転用(スイッチ)した医薬品。  
効能はOTCに比べ、比較的強い。

<調査期間> 2004年4月～6月  
<調査方法> 業界関連企業へのヒアリング調査を主体に薬事工業生産動態統計その他公表データ類を勘案のうえ、整理分析した。

資料タイトル：「一般用医薬品データブック 2004」(上・中・下巻)

体 裁 : A4判 上巻 231頁 中巻 203頁 下巻 241頁  
価 格 : 各90,000円(税込 94,500円)  
          セット価格250,000円(税込 262,500円)  
          CD-R付セット価格270,000円(税込 283,500円)  
調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 Health care Div  
          TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778  
発行所 : 株式会社 富士経済  
          〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2 - 5 F・Kビル  
          TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL：<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>